

▶ S-KYT研修・健康づくりセミナーを受講して ◀

北海道札幌市南消防団

1. はじめに

札幌市は、面積1,121.26km²、人口約196万人の日本の最北にある政令指定都市であります。

南区は、市内にある10の行政区のひとつで、札幌市の南西部に位置し、面積は657.48km²で全市域の約60%を占めており、区内には支笏洞爺国立公園が含まれ、札幌岳や余市岳など標高1,000mを越える山々や札幌の奥座敷である定山溪温泉街、札幌のシンボルのひとつである藻岩山など豊かな自然と約14万人もの区民が暮らす住宅街とが調和した街であります。



2. 消防団の概要

札幌市には10の行政区にそれぞれ団を設置、各団は、本部と分団により構成され10本部72分団、実員1,820人となっています。南消防団は1本部8分団209名(H29.4.1現在)で構成されています。

南消防団の歴史は、明治27年に豊平村に消防組が発足し、その後、昭和36年5月に札幌市に合併し札幌市南消防団として、その後、幾度かの機構改革を行い、現在に至っています。

平時は、訓練、防火指導などを中心に消防団活動を行っており、平成20年10月からは、「救命指導コスモス隊」を発足させ、区内の救命講習会に出向き地域の救命率向上を図るとともに、

消防団活動に理解を深めるよう努めています。

また、南区の地域特性で山岳地を有していることから、春や秋の山菜採り、登山などにおける行方不明者の搜索活動や林野火災に出動するなど、南消防団は地域に密着した積極的な活動を行っています。

3. S-KYT研修及び健康づくりセミナー開催の経緯

札幌市にある10の消防団を2つに分け、A地区(白石、厚別、豊平、清田、南)、B地区(中央、北、東、西、手稲)として、北海道消防協会の協力頂き、各地区持ち回りで、消防団員の現地教育訓練を開催しております。

今年度は南消防団が担当ということで、各団員の皆さんに、より有意義な研修、訓練を行うため、いろいろ検討した中、やはり、地域の防災力の中核を担う消防団員のさらなる災害対応能力の向上、また、団員の高齢化が進む中、団員自身の健康づくりの2点をポイントとし、「S-KYT研修」と「健康づくりセミナー」の2本立てで研修を行うこととしました。

4. 研修を受講して

S-KYT研修については、本来の研修時間を短縮して実施することを依頼したところ、快く承諾して頂くとともに、講師の方々がポイント、ポイントを短時間の中で上手に説明して頂きました。

5つの団が参加する研修であり、初めて顔を合わす団員がひとつのグループとなって研修を受講したため、当初は緊張が見られ、さらには指差し呼称、指差し唱和やタッチ・アンド・コールなどは照れもあったようですが、安全管理の

重要性、また普段の取組み方ひとつが安全管理に繋がることなど、訓練や現場活動における重要性を再認識するとともに、呼称などにより、笑顔も交えてグループ討議を行うことで、チームワークの大切さやコミュニケーション能力の向上にも繋がる研修となりました。

次に健康づくりセミナーでは、生活習慣をチェックと題して、食事の採り方や運動について、さらに隠れ肥満？内臓脂肪型肥満についての講義、また、実際に体を動かしてスクワットを行うなど、頭と体を使った講義内容となりました。

受講者の皆さんも、自分は大丈夫と知っていることが不健康な生活になっているなど、気づきが沢山あったものと思います。

本講義を踏まえて、普段の生活について改善

できること、また新たに挑戦することなど、今頃、各団員さんが取組みを始めているものと思います。

5. 結びに

この度の研修開催にご協力頂きました講師の皆様方、消防基金の方々に心より感謝を申し上げます。

また、本研修で学んだことを、各団、分団に持ち帰り、他の団員の方々にも伝えるとともに自己研さんに励み、地域の防災力のさらなる充実強化に努めて行きたいと思います。

我々は、今後も地域住民の安全・安心を守るため、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき消防防災活動を行っています。

